

# 第60回 在宅ケアネット渋川 講演会レポート

〔日時〕 3月9日(木) 19:00~20:00 〔会場〕 プレヴェール渋川

〔講師〕 桐生厚生総合病院

副院長/皮膚科診療部長 岡田 克之 先生



参加者内訳人数

職 種	会場	Web	計
医師、歯科医師、薬剤師	5	1	6
看護職(保健師・看護師)	10	4	14
PT/OT/ST	3	5	8
介護支援専門員	6	12	18
介護職	6	1	7
栄養士・管理栄養士	6	1	7
ソーシャルワーカー/相談員	3	1	4
事務(行政含む)/その他	3	0	3
合計人数	42	25	67

ケアマネジャーを対象とした褥瘡リスクアセスメントスケール  
「床ずれ危険度チェック表」の開発

森田ら, 新報会誌, 21(1), 99-105: 2019.

項目	チェック	本邦の褥瘡発生要因を反映させること
1 自分で移動がうてない		「はい」「いいえ」で答えられること
2 頻せて、骨格が歪んでいる		「はい」「いいえ」で答えられること
3 足や腕の関節を伸ばすことが出来ない		「はい」「いいえ」で答えられること
4 食事量(固形)が通常の半分以下		「はい」「いいえ」で答えられること
5 体が浮腫んでいることがある		「はい」「いいえ」で答えられること
6 オムツを常時使用している		「はい」「いいえ」で答えられること
7 足が浮腫んでいる		「はい」「いいえ」で答えられること
8 ギャッチアップ機能を利用して体を起こしている		「はい」「いいえ」で答えられること
合計		点が高い 褥瘡発生リスクが高い

【講演資料より抜粋】

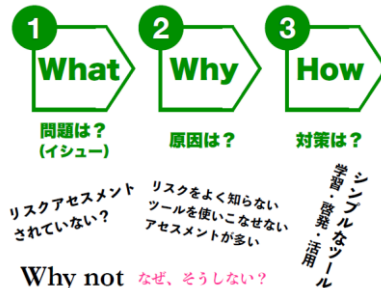
ほか: 第5回 在宅介護 学術集会 (2019)

使えるツール  
結果の出るツール

ケアマネジャーの  
行動変容・初動の促し

在宅褥瘡予防

床  
ずれ  
予  
防  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム



ケアプランが変わる!  
在宅介護が変わる!

床ずれ予防  
プログラム

床ずれ危険度チェック表®を活用

※ 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会

【出版: 春恒社】

今回は「在宅褥瘡を多職種連携で防ぐ! ~床ずれプログラムの意義~」と題して岡田克之先生にご講演いただきました。褥瘡についてはもちろんですが、先生の経験談や読まれた書籍なども交えて多職種連携についての難しさなど、多方面に渡ってお話いただき、あっという間の1時間でした。

とても印象的だったのが、桐生市でケアマネジャーを対象とした「床ずれ危険度チェック表」の妥当性を検証した時のお話しです。検証を実施した際には重度の褥瘡の症例が見つからなかったそうです。しかし、病院には重度の褥瘡の患者さんが運ばれてくる現状から、「妥当性の検証に協力していただけるようなケアマネさんはしっかりと対策をされている(医療資源を知っている)ので見つからなかったのではないかな。」という考えに至ったそうです。私どもも講演会や研修会を実施していますが、参加している方はいろいろと勉強をつまれていると感じています。興味をもっていない方に、いかに興味をもってもらおうようアプローチして知ってもらえるようにするか、考えさせられました。

話しは変わりますが書籍「床ずれ予防プログラム」には褥瘡の問題別に、解決策・誰(どの職種)とつながったら良いか等のこともチェックリスト形式で書かれているそうです。問題解決の参考になりそうですね。

〔参加者の感想(一部抜粋)〕

- ☆褥瘡の発症を予防するには多職種共通理解+それぞれのスケールが一致しているかが大切。
- ☆チェックリスト等を活用し「誰と連携したらいいか」等が分かることはとても連携がとりやすいと思いました。
- ☆褥瘡についてだけでなく、チーム連携の必要性、重要性について、改めて確認できました。
- ☆具体的なケア手技の話ではなかったからこそ、普段ケアに入らない自分にとっては褥瘡への印象が少し変わりました。褥瘡そのものだけではなく、かくれている問題点を見つけていくことが大切だと感じました。